

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

平成20年度以前取得の固定資産及びリース資産(所有権移転リース)は、定率法によっている。平成29年のリース資産(所有権移転外リース)は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっており、平成31年からのリース資産(所有権移転外及び所有権移転リース)は定率法によっている。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入単価をもって、期末棚卸資産の単価を計算する最終仕入原価法

(3) 引当金の計上基準

賞与引当金…職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する期間の額を計上している。

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	3,785,090	3,469,596	3,785,090	0	3,469,596

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

(5) リース取引の処理方法

ア リース物件の所有者が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理により行っている。

イ 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース資産)は、瞬間湯沸器(金属製)と小型貨物車である。

未経過リース料期末残高相当額

(単位:円)

リース物件名	期首残高	1年以内	期末残高
電気瞬間湯沸器(金属製)	183,744	183,744	0
小型貨物車(鹿児島400と5483)	1,206,060	241,212	964,848
合計	1,389,804	424,956	964,848

当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額(単位:円)

支払リース料	424,956
減価償却費相当額	486,518
支払利息相当額	20,148

2 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産(定期預金)	50,000,000	0	0	50,000,000
合計	50,000,000	0	0	50,000,000

- 3 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
リース資産 (電気瞬間湯沸器(金属製))	1,002,240	511,254	490,986
建物付属設備資産 (理事長室パーテーション)	605,000	604,999	1
リース資産(公用車) (鹿児島400と5483)	1,688,500	1,323,784	364,716
合計	3,925,740	2,440,037	855,703

- 4 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
運営補助金	薩摩川内市	0	236,855,000	1,648,633	235,206,367	一般正味財産
文化事業 推進補助金	薩摩川内市	0	4,000,000	0	4,000,000	一般正味財産
合計		0	240,855,000	1,648,633	239,206,367	

- 5 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内容	金額
基本財産の普通預金利息計上による振替額	1,000
合計	1,000